



南アフリカ人スタッフ自身が考える活動

以上のプロセスは、JVCの南アフリカ人スタッフ3人が主導して進めてきました。3人は、前事業において、HIV陽性者や親のいない子どもたちの支援、これらの人びとを村内でサポートするケアボランティアへの研修機会の提供などを通じて、これらの人びと自身が変わり、自分たちで地域を変えていく様子を目にしてきました。活動に参加する人びとに寄り添い、話し合い、ともに活動内容を検討し進める中で、この経験と成果を周囲地域にも広げていきたいとの思いを強くしています。また自分たちで「どのような活動をしてどのように社会を変えたいか」というビジョンや活動のアイデアを持ち、提案・行動するようになってきました。2019年度からのプロジェクトの方向性や活動の内容は、3人が中心となってパートナー団体と検討してきたものであり、今後はこれに基づいて活動を実施していきます。

南アフリカは様々な社会課題を抱える一方で、例えばHIV/エイズやカウンセリング、救急法など、JVCが活動を進めるにあたり必要とする研修を提供できる力をもったNGOが存在するなど、自ら社会を変えようとする市民も多くいます。JVCの南アフリカ人スタッフも過去の活動や自ら受けた研修を通じて、家庭菜園研修のトレーナーとして活躍できる技術と経験を身につけています。また、青少年を対象とした研修等については、これからの活動のなかで、実地で学んでいくことを予定しています。こうしたスキルをスタッフ自らが身につけることで、将来、活動の経験と学びをより広く伝えていくことが可能となります。



パートナー団体とともに、子どもを取り巻く課や自分が何をすべきかを検討、そのためにJVCとの協働で何を行いたいのかを話し合った



JVCとの協働で行う活動のイメージを持ってもらうために旧活動地と交流、ケアボランティアらが村の菜園づくりトレーナーを訪問した

活動地からの声

ムトウハディニ・チシクレさん
49歳



ムペゴ村の子どもケアセンターでケアボランティアをしています。3人の子どもと2人の孫と暮らしています。子どもたちが大好きで、センターに通ってくる子どもたちの未来を明るくしたいと願って活動しています。私たちの地域では、アルコールやドラッグ、10代の妊娠など、様々な課題を抱えています。子どもたち一人ひとりが正しく行動し、様々なリスクに巻き込まれないようにガイドしていくことも私たちボランティアの役割です。そのためには、ケアセンターが子どもたちにとってより魅力的な場となる必要があります。これからのJVCとの活動で、さまざまな研修を受けて、学ぶことが楽しみです。

